

分担研究者会議議事録

日時：平成7年6月26日
場所：鉄道会館ルビーホール

出席者：

主任研究者	小川	雄之亮
分担研究者	大西	鐘壽
分担研究者	戸苅	創
分担研究者	藤村	正哲
分担研究者	前川	喜平

議事：

1. 各分担研究課題について
2. 各分担研究の研究計画について
3. 各分担研究の研究協力者の委嘱について

分担研究「胎児・新生児の発育に関する研究」班

第1回分担研究班会議議事録

日時 : 平成7年9月5日(火) 14:00～17:00
場所 : スクワール麴町 5F「百合の間」

出席者 : 厚生省

母子保健課長	松谷	有希雄	
母子保健課長補佐	富沢	一郎	
分担研究者	小川	雄之亮	
研究協力者	竹内	久彌	仁志田 博司
	高田	昌亮	栗谷 典量
	板橋	家頭夫	山内 芳忠
	上谷	良行	井村 総一
	磯部	健一	
協同研究者	竹内	敏雄	
オブザーバー	山口	規容子	中江 陽一朗

議 事 :

1. 分担研究者挨拶
2. 厚生省母子保健課長挨拶
3. 厚生省母子保健課長補佐挨拶
4. 班員紹介
5. 研究計画の概要説明
6. 研究計画についての討議
 - 1) 在胎別出生時体格基準値作成グループでは、①対象を1994年1月1日～12月31日に出生した奇形症候群を除く、月経歴と妊娠8～11週に胎児ICJ-のCRL計測の結果が合致している例。
予備調査として班員所属の10施設を対象とし、①の条件に合致する35週以上は各施設20例、未満は全例とすることを申し合わせた。
また、調査用紙は小川が原案を作成することとし、10月に調査を開始することとした。
 - 2) 栄養法別出生後発育値作成グループでは、完全母乳例にしぼり調査を行う事とした。
 - 3) 極低出生体重児の発育値作成グループはデータ収集の困難さがあるが、これまでの対象について更に追跡を続けることとした。
 - 4) 成熟度判定法作成グループはnew Ballard法を中心に新しい判定法の検討を、まず小規模の予備調査から始める事とした。
7. 次回報告会について
平成8年1月30日(土)に東京にて行う事とした。

第2回班会議議事録

日時： 平成8年1月30日 12:30～16:00
場所： スクワール麴町 百合の間
出席者： 厚生省母子保健課課長補佐 富沢一郎
分担研究者 小川 雄之亮
研究協力者 磯部健一、板橋家頭夫、井村総一、上谷良行、
栗谷典量、高田昌亮、竹内久弥、仁志田博司、
山内芳忠（五十音順）
共同研究者 日下隆、竹内敏雄

内 容：

1. 分担研究者挨拶
2. 母子保健課長補佐挨拶
3. 研究発表
 - 1) 出生時身体発育基準値作成グループ
班員所属の10施設における出生時身体計測値の調査結果が報告された。来年度は全国主要施設に広げて完成させることとした。
10 μ -センチルと従来の-1.5SDのハイリスク児スクリーニングに及ぼす影響について報告され、基準値は10 μ -センチル値とSD値の両方を出すこととした。
基準値作成シミュレーションが行われ、基準値作成には早産例は各週約30例のデータを得ることが望ましいと結論された。
 - 2) 栄養法別乳児発育基準値作成グループ
完全母乳栄養児男100例、女100例の縦断的発育値が報告された。
その検証として別の施設での予備調査結果が報告された。
 - 3) 極低出生体重児の生後発育基準値作成グループ
極低出生体重児の10歳以降の身体発育、2次性徴発現についての予備調査結果が報告された。
 - 4) 成熟度判定基準検討グループ
Ballard法、New Ballard法について超早産児を中心に検討が行われた結果が報告された。
4. 班総会について
2月19日の班総会での報告は、分担研究者が纏めて報告し、質疑には各班員が対応することとした。
5. 事務連絡
 - 1) 各個研究報告
報告書作成基準に従って作成し、2月19日を締め切りとした。
 - 2) 会計報告
2月19日までが望ましく、最終締め切りを2月19日とした。

分担研究「ハイリスク新生児の管理に関する研究」

第1回分担研究班会議議事録

日時： 平成7年9月24日（日）14:00～17:00

場所： 香川医科大学 基礎臨床研究棟2階 カンファレンスルーム

出席者： 大西鐘壽、伊藤進、宇賀直樹、鬼頭秀行、岩瀬一弘、
志村浩二、白井眞美、東明正、二村眞秀、

議事：

まず、分担研究者が挨拶をし、それから班員が自己紹介を行った。

各研究協力者より、それぞれのリサーチクエスションに則した研究テーマ、目的、計画・方法、本年度の実施計画の発表があった。それについての研究計画の討議を行った。

アンケート調査、文献収集により研究を進めていく事が確認された。

また、主任研究者の小川雄之亮先生より「報告書はフロッピーで提出の事」との連絡があった旨、研究協力者に伝えられた。

本研究について、次の質問事項があるので分担研究者より主任研究者へ問い合わせを行い、各協力者に返事をする事とした。

1. 基礎研究の許容される範囲について
2. 研究報告書の形式について（サイズなど）
3. 会計書類領収書の宛名、日付について
4. 消耗品は研究内容に則したものでなければならないか

次回第2回の班会議は12月に行う予定であることが分担研究者から研究協力者へ伝えられた。

第2回分担研究班会議議事録

日時： 平成8年2月2日（金）10:00～17:00

場所： 高松グランドホテル（JR高松駅前）

住所 高松市寿町1-5-10

TEL （代表） 0878-51-5757

出席者：

分担研究者 大西鐘壽

研究協力者 安次嶺馨、伊藤進、宇賀直樹、鬼頭 秀行
岩瀬一弘、志村浩二、東 明正、二村眞秀、
余語紀子、大西喜久子、日下隆、蓮池和世、
矢口善保 以上14名（敬称略）

- 議題：
- 1) 分担研究者挨拶
 - 2) 班員の各個研究報告
 - 3) 分担研究報告書の資料、討議
 - 4) 事務連絡

分担研究「脳質周囲白質軟化症(PVL)の成因と治療に関する研究」

第1回分担研究班会議議事録

日時： 平成7年9月1日(金) 15:00～17:00
場所： 名古屋市立大学病院新棟6階 第2会議室

出席者： 高嶋幸男、吉岡 博、船戸正久、玉井 晋、田角 勝、
茨 聡、戸蒔 創、藤本伸治、山口信行、以上9名

議 事：

1. 事務連絡

- 1) 報告書の提出
- 2) 銀行の振込口座の開設……………当事務局へ連絡

2. 今年度の研究計画

今年度の研究計画について討論がなされ、全体研究と各個研究にわけ、PVLの成因と治療に関する研究を遂行することで、全員の協力を得る事を確認した。

まず、全体研究として、今年度はPVLの診断が各施設でかなりばらつきがあることに鑑み、診断の統一を計る目的で、定義の確立を目的とする事で一致を見た。共通の評価が得られるものと期待される。

各個研究として、今年度は、病理学的研究(高嶋班員)、低酸素虚血モデルの作成(吉岡班員)、胎児期発症例の研究(茨班員)、新生児期発症例の研究(船戸班員)、虚血再還流時の諸変化に関する研究(田角班員)、それに診断・定義に関する研究(戸蒔班員)が実施される旨、報告があった。

3. 次回(第2回)の班会議の案内

平成7年12月4日(月) 15:00～17:00
名古屋市立大学病院新棟6階 第2会議室にて

第2回分担研究班会議議事録

日時： 平成7年12月4日(月) 15:00～17:00
場所： 名古屋市立大学病院新棟6階 第2会議室

出席者： 高嶋幸男、吉岡 博、松岡泰孝、上原久和、船戸正久、玉井 晋
田角 勝、佐藤弘之、茨 聡、浅野 仁、藤本伸治、兵藤潤三、
山口信行、以上14名

議事：

1. 事務連絡

- 1) 報告書の提出事項
- 2) 会計報告

2. 今年度の研究報告

全体研究として、PVLの診断基準の作成のためのワーキンググループの設立が提案された。具体的には班員の関係する施設を中心に大凡100例の、1歳の時点でMRIが施行されていて、2歳の時点の予後が判明しているPVL症例を集積し、ワーキンググループの同一メンバーが、診断の調節をしつつ、診断基準の素案を来年度に作成することで一致した。今年度は、各施設での症例数の把握など、実態調査を行った。その結果、100-150例の集積の可能なることが判明した。各個研究として、今年度は、PVLの病理学的な分類を試みるとともに、PVLの病理学的な定義に関しての検討を行い、可能な限り、現段階では、他種類に分類することが必要であるとの結論を得た（高嶋班員）。

低酸素虚血モデルを作成し、どれ程の負荷がどの程度の障害を発生するかを検討すると共に、臨床例での検討から、発症にかかわる因子を検討した（吉岡班員）。分娩監視装置によるモニタリングのデータをPVL発症例を検討し、Variable decelerationの出現が深く関与していることが判明した（茨班員）。PVLの新生児期発症例の検討から、低炭酸ガス血症に暴露されている時間が関与していることが判明した（船戸班員）。虚血再還流時の一酸化窒素が興奮性アミノ酸による細胞障害に関与していることが提示された（田角班員）。診断・定義に関して、今後のワーキンググループでのたたき台としての素案が提示された（戸苅班員）。最後に、全体討論が行われ、来年度に向けての研究継続、発展の意志が確認された。

3. 厚生省心身障害研究「新生児期の疾患とケアに関する研究」班総会の案内

日時：平成8年2月19日（月）10：00～

場所：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

分担研究「新生児の慢性肺疾患の予防と治療に関する研究」

第1回分担研究班会議議事録

日時： 平成7年9月27日（水）14：00～17：00
場所： スクワール麴町
住所 東京都千代田区麴町6-6（JR四ッ谷駅前）
TEL 03-3234-8739

出席者： 小川雄之亮、藤村正哲、川本 豊、奥 起久子、
田村正徳、馬場 淳、河野寿夫、立石 格、清水 浩、
西田 朗、

議 事：

- 1) 研究課題について案に基づき、研究課題と研究の進め方、年次計画について具体的に検討し、全体の方向性と1995年度班研究、1995年度個別研究について決定した。
- 2) 事務手続きについて説明した。

第2回分担研究班会議議事録

日時： 平成7年12月1日（金）13：00～17：00
場所： メルパルク大阪
住所 大阪市淀川区宮原4丁目2-1

議 事：

- 1) 事務・会計処理について

研究費振込み	11月28日完了
研究報告	締切 1月末日
会計報告	締切 2月10日
班総会	2月19日（月）10：00～ アルカディア市ヶ谷（私学会館）

次回班会議（熊本市）について

- 2) 班全体研究

後方視的研究 まとめ 川本 豊

班員の6施設のCLD管理の現状調査を実施したので、それをまとめた。

また同施設の1994年のCLD入院患者全員について、CLD型別、呼吸管理状況などの症例調査を実施したので、それをまとめた。

これらの経験を平成8年度の全国調査に反映させる予定である。

前方視的研究 慢性肺疾患外来サマリと外来個票の実施状況

班員の6施設のCLD児について、前方視的に調査を行い、慢性肺疾患管理のマニュアル作成に反映させる事とする。

CLD全国調査について

全国調査は平成8年に実施する予定である。対象施設については新生児委員会の全国調査、小川班の他の班の調査とも調整する必要がある。調査の進め方についての打ち合わせを次回4月の班会議で行う。

CLD管理マニュアルの作成について

管理マニュアルは当班の最終成果物として準備を進める。

各個研究発表

Nasal CPAPによる早期抜管の試み

Liquid Ventilationの基礎的検討

Nasal CPAPの基礎的検討

肺洗浄モデルにおけるスライトの役割

気道内吸引液のIL8と顆粒球エラスターゼ

ARDSモデルにおける活性酸素の動態

各研究協力者

奥起久子

箕面崎至宏

田村正徳

馬場 淳

河野寿夫

立石 格

清水 浩

西田 朗

分担研究「ハイリスク新生児の発達評価に関する研究」

第1回分担研究班会議議事録

日時：平成7年7月21日（金）14：00～16：00

場所：東京慈恵会医科大学高木会館D会議室

出席者：前川、山口、諸岡、松石、小西、犬飼、川上、奈良、
副田、山下、林、木村、

議事：

平成7年度の研究として次のことを討議、決定した。

- 1) 研究の概要と目的：最初に本研究班の説明とリサーチエシジョンより、研究概要と目的についての討論が行われた。

ハイリスク児は新生児期ばかりでなく、その後の発達に問題がある可能性のあるものを言う。従って発達評価に関する基準もこれを加味したものでなければならない。我々はこれらの基準を作成し、その有効性と予後との相関を検討するのを本研究の目的とする。新生児の発達評価項目として種々のものがあげられるが、我々はこれらの項目一つ一つについて、何が最も発達評価として有効であるかを先ず検討する。これと平行して周産期因子のうち、どんな項目がその後の発達と相関するかを検討し、これらをもとにして評価基準案を作成する。

- 2) 具体的研究：種々の発達評価項目の役割分担として次のことが決定した。

神経学的診察（諸岡、奈良、山下）

自発運動（木村、小西、奈良、川上、犬飼）

新生児行動（哺乳行動も含む）（前川、林、川上）

予後から見た周産期因子（山口、松石、犬飼）

- 3) 発達評価基準はNICU勤務の小児科医が使用可能なもので、且つ最終的にはスコア化する予定である。また、異常よりでなく、正常よりみた評価基準のほうがわかりやすいのではないかという意見も出された。

- 4) 各分担項目について、満期正常児、ハイリスク：ローリスク、ハイリスク：ハイリスクの3群について、予定日、退院時に分担項目をチェックし、どれが一番有効かを検討する。

- 5) 女子医大周産期センターの就学前、就学後の発達の資料、聖隷浜松病院の就学前、就学後の発達の資料と、我々が行った極低出生体重児183名の就学前発達チェックと、周産期63因子の資料をもとにして、周産期因子とその後の発達にどんな項目が最も相関するかを検討する。そして、以上の資料をもとにして、今年度は、発達評価基準案を作成する。

- 6) 次回の班会議は11月25日（土）午後開催する。

分担項目の研究結果と共に各自が撮影した、自発運動のビデオテープを持参し、自発運動についてコンセンサスを小西先生より指導を受ける。

第2回分担研究班会議議事録

日時： 平成7年11月25日(土) 14:00～16:00

場所： 東京慈恵会医科大学高木会館B会議室

出席者： 前川、山口、諸岡、松石、小西、犬飼、川上、奈良、
副田、青木、山下、林、木村、中江 以上13名

議事：

1. 平成7年度研究結果

1) 周産期因子と神経学的発達予後

山口は東京女子医大周産期センターの極低出生体重児のデータをもとにして、major handicapでの短期予後ではIUGRと低血糖が、SFDとAFDでは、妊娠中毒症、胎児切迫仮死と多血症が関連する。Major handicapを除いた群の長期予後では出生体重1000g以下、在胎28週未満と、母親や両親の学歴が予後と関連する。極低出生体重児183名の就学前予後との関連では(松石、犬飼)、在胎週数、出生時体重、在院日数が特に関連がみられた。

2) 神経学的診察

自発運動について小西、木村がビデオ記録した14症例について提示があった。それをもとにして自発運動の正常、異常の判定についての討論が行われた。ビデオテープでの一致率は80%で神経学的発達評価の判定にかなり役立つことが判明した。前川、諸岡、奈良、中江らの新生児の神経学的診察法は筋トーンの低下、反射の消失の場合は有効であるが、反射が存在し、筋トーンが正常か、軽度異常の時はあまり判定に役立たない。筋トーンの異常により明かな姿勢の異常の場合は神経学的診察をしなくても診断が可能である。

結局、発達評価としては従来の神経学的診察に自発運動を加味して行うこととした。また、超音波の所見をこれに加味することとした。川上も自発運動の記録を行っている。

3) 新生児の哺乳行動の他覚的解析(前川、林)

超音波による画像解析装置の使用により、我が国で最初に乳児嚥下の存在を証明した。新生児は吸啜動作と呼吸を独自に行っている。乳児嚥下は2ヶ月では存在するが、2歳では消失している。哺乳行動は新生児の脳機能の判定として、重要な要素であるので、ハイリスク児にそれを応用し脳障害の早期判定に役立てる予定である。

4) ハイリスク新生児の発達評価のプロトコル(案)の作成

今まで我が国が行ってきた極低出生体重児の周産期因子と神経学的発達の予後により、関連する周産期因子と、所見を加え、それに自発運動と従来の新生児の神経学的診察法を加味した発達評価のプロトコル(案)を作成する。

役割分担

1. 周産期因子：山口、松石、犬飼
 2. 自発運動：木村、小西、川上、前川、中江、林
 3. 神経学的診察：諸岡、奈良、副田
- 1月30日までに括める。

全体班会議

議事録

日時： 平成8年2月19日(月) 9:30~14:00

会場： アルカディア市ヶ谷(私学会館)
〒102 東京都千代田区九段北4-2-25
Tel 03-261-9921(代) FAX 03-3261-7760
JR線・地下鉄線(有楽町線・新宿線)市ヶ谷駅前

出席者： 厚生省 母子保健課長 松谷有希雄
主任研究者： 小川雄之亮
分担研究者： 小川雄之亮、大西鐘壽、戸荻 創、
藤村正哲、前川喜平、
ワグザ-ハ-： 多田 裕、中村 肇、橋本武夫、

研究協力者：

小川班： 竹内久彌、仁志田博司、高田昌亮、栗谷典量、板橋家頭夫、山内芳忠、
上谷良行、井村総一、磯部健一
大西班： 東 明正、志村浩二、宇賀直樹、鬼頭秀行、安次嶺 馨、伊藤進、
二村真秀
戸荻班： 高嶋幸男、船戸正久、吉岡 博、茨 聡
藤村班： 奥 起久子、田村正徳、河野寿夫、清水 浩、西田 朗
前川班： 山口規容子、諸岡啓一、松石豊次郎、川上 義、犬飼和久、木村恵子

協同研究者： 嶋田優美、奥山浩子、岩瀬一弘、余語紀子、玉井 晋、箕面崎 至宏、
小西行郎、山守かずみ

議 事：

- | | | |
|---------------|-------|--------|
| (1) 開会挨拶 | 主任研究者 | 小川 雄之亮 |
| | 厚生省 | 松谷 有希雄 |
| (2) 小川班分担研究報告 | | 小川 雄之亮 |
| (3) 大西班分担研究報告 | | 大西 鐘壽 |
| (4) 戸荻班分担研究報告 | | 戸荻 創 |
| (5) 藤村班分担研究報告 | | 藤村 正哲 |
| (6) 前川班分担研究報告 | | 前川 喜平 |
| (7) 事務連絡 | | |
| (8) 閉会 | | |